

GK情報レポート

【2016年発行】

vol. 47

新年号

発行者

権田金属工業株式会社 営業部

〒252-0212

神奈川県相模原市中央区宮下 1-1-16

電話 042-700-0221

FAX 042-700-0660

E-mail: eigyo@gondametal.co.jp

<http://www.gondametal.co.jp>

Contents

1. 新年ご挨拶
2. 『高機能金属展～メタル大阪』に出展しました
3. 『日本マグシウム展』に出展しました
4. 第120回GK会
5. 銅相場『2016年第1四半期見通し』

皆様でご覧下さい。

回 覧 印										
-------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※バックナンバー（Vol.1～46）用意しております。ご希望の方は当社営業部までお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社

1. 新年ご挨拶

明けましておめでとうございます。

旧年中は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

今年は年初からイランとサウジアラビアの断交、北朝鮮の核実験、株式相場の暴落など近年にない波乱の幕開けとなりました。こうしたことが今後日本にどのような影響があるか心配なところです。

そうした波乱の要素はいろいろありますが、日本の上場企業の業績は昨年の流れを引き継ぎながら今年も比較的良い状況で行きそうです。その一方中小企業の業績は、同じ業種の中でも良いところとそうでないところの差が広がっているような感じを受けております。

私ども権田金属といたしましては、いろいろな提案をさせて頂きながらお客様のお役に立てますように今年も頑張っていく所存でございます。

本年もご愛顧のほどよろしくお願いいたします。



2016年1月吉日
権田金属工業株式会社
代表取締役社長 権田源太郎

2. 『高機能金属展～メタル大阪』に出展しました



2015年10月7日(水)～9日(金)の3日間にわたりインテックス大阪で「高機能金属展～メタル大阪」と銘打った展示会が開催されました。この展示会は、最先端の金属材料の紹介や、最先端の金属加工、分析方法、リサイクル技術など高機能金属に関するあらゆる技術を紹介する専門展です。

新たな視点にたった展示会として多くの方々の興味を惹き同時開催された関西高機能フィルム展、関西機械要素技術展と合わせて来場者は3日間で42,000人を数えました。

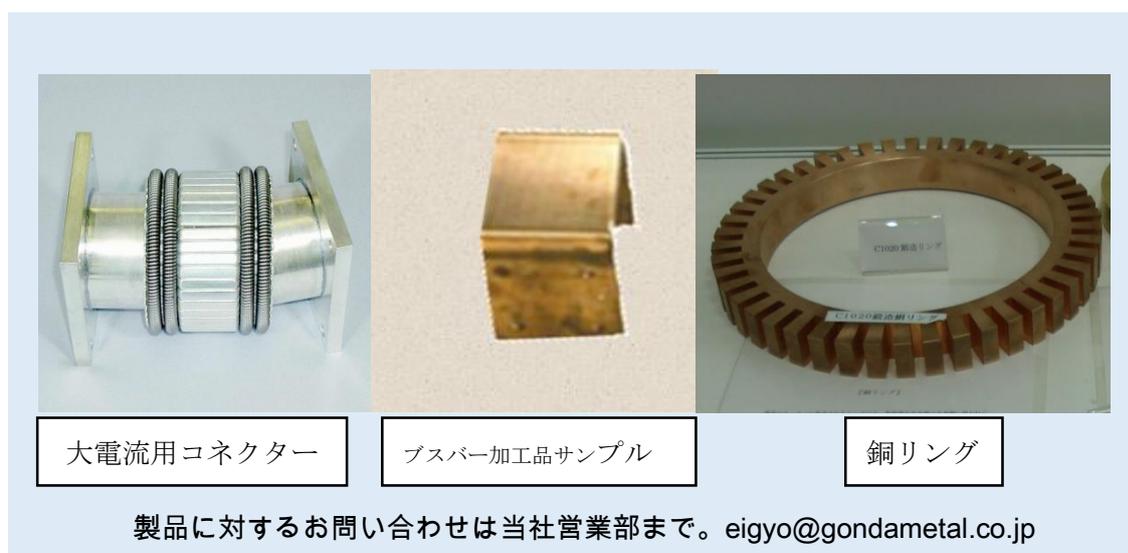
① 伸銅製品を出展

日本銅センターが参加を募り18社と共同で出展しました。



当社からは、電車のモーターに使われている銅リング、ブスバーの加工品、大電流用コネクタ／鍛造サンプルといった特徴のある伸銅品を出展しました。大電流用コネクタは、発電所などで使われ、開閉器と高電圧流ケーブルとをつなぐジョイント部分に使われています。

当社を含めた伸銅メーカー4社と銅の抗菌性を利用した製品を製造しているメーカー14社が各社独自性の強い製品を展示していました。



② マグネシウム製品を出展

マグネシウム製品は高機能金属展に協賛している日本マグネシウム協会のブースに7社での共同出展となりました。



国土交通省の不燃認定を受けたマグネシウムを使用した建材/エキスパンションジョイント、マグネシウム鍛造品、切削加工品、着色品などバリエーションに富んだサンプルを展示しました。不燃性、熱の拡散性、良好な切削性、高品質なメッキの光沢、陽極酸化処理の鮮やかな色取りといった軽量化メリットだけにとどまらないマグネシウムの魅力の紹介に努めました。

3日間で沢山のお客様に来場していただき、展示会後も多くの問い合わせをいただきました。

高機能金属展自体も好評の上、当社の両ブースへも多くの皆様にお越しいただき、盛況のうちに3日間を終了することが出来ました。

当社の製品を現地で眼にされたお客様から頂戴したご意見、ご感想を今後のものづくりの参考にして、今後もより良い製品を作り続けていこうと思っております。お忙しい中、たくさんのご来場、誠にありがとうございました。

記者 田中



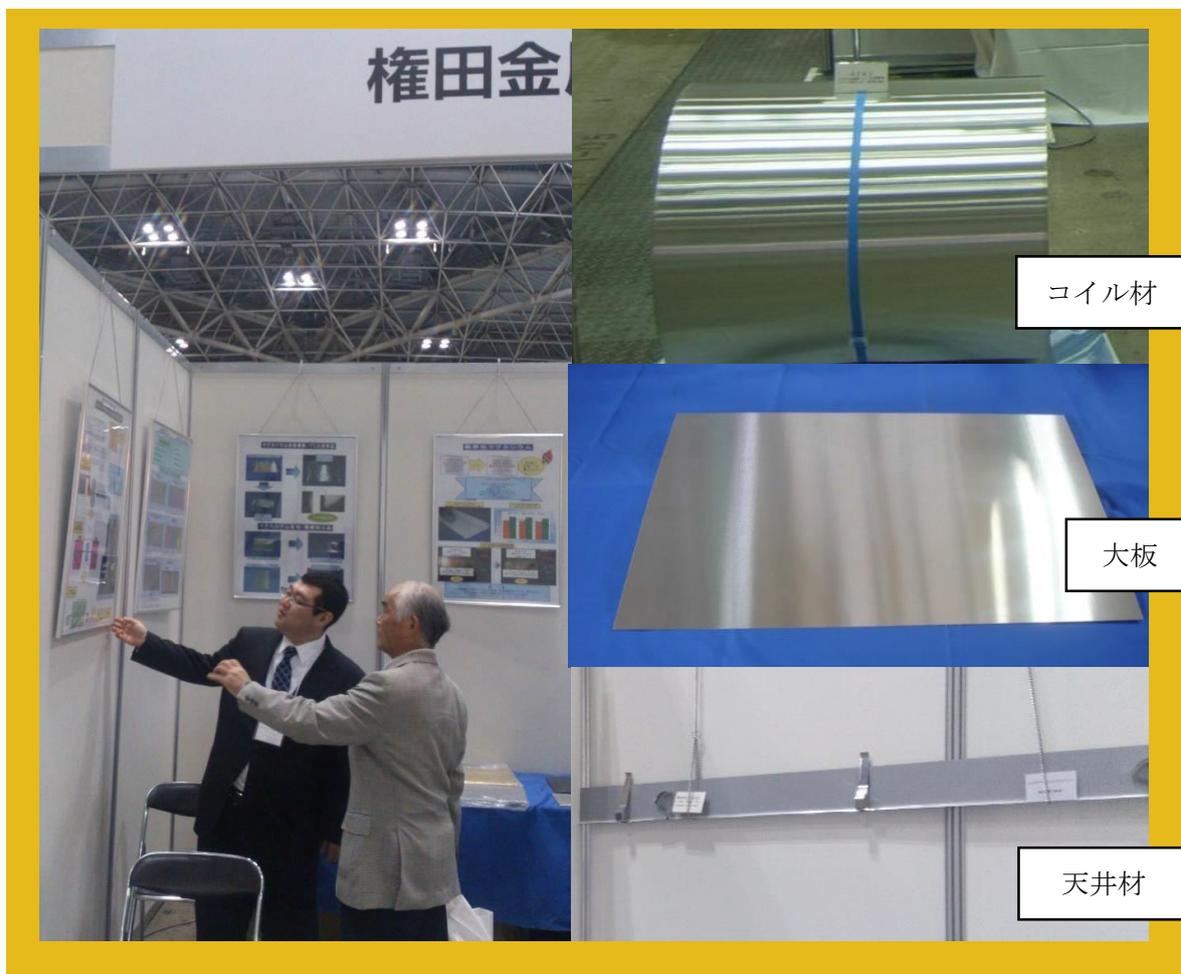
3. 『日本マグネシウム展』に出展しました

マグネシウムの特徴への認識は年々高まりつつあります。ロボット産業、自動車産業、航空機、福祉関連など幅広い分野でマグネシウムの重要性が再確認され始めています。このような盛り上がりを受けて、2015年12月2日（水）～12月4日（金）に東京ビッグサイトで第七回「日本マグネシウム展」が開催されました。

「日本マグネシウム展」は茨城マグネシウム工業会が主催して、当社を含む10社が参加をしました。この10社にはマグネシウムの素材メーカーのみならず、加工メーカーや商社をも含み、総合的にマグネシウムの普及を実感できる展示会となりました。協賛は、日刊工業新聞社、(社)日本マグネシウム協会でした。



当社は、一般に馴染みのあるマグネシウム合金をプレス加工品したパソコン用筐体や鍛造方式で作られたスマートフォンの筐体などを展示しました。また、免震構造を備えた



天井材の実物品や自社工場から直送したマグネシウム合金AZ61のコイル材並びにそのコイル材から切り出された大板といった日常生活では見ることはないような大きな展示品も出展いたしました。

コイル材は幅 600mm あり日本国内でこれだけ大きなマグネシウムのコイル材を製造できるメーカーは当社をおいて他にはありません。またコイル材から切り出された大板は 600mm×1000mm の寸法です。

「日本マグネシウム展」は、「先端材料技術展」の一部として開催されました。
「日本マグネシウム展」を含む「先端材料技術展」には、のべ21,600人が来場し、盛況のうちに3日間の会期を無事終える事ができました。
会場で多くのお客様にお会いすることが出来ました。
また、その間に引合いも多数いただきました。今後ともより精進いたすべく研鑽を積んで行きたいと思っております。

記者 田中

4. 第120回GK会

2015年11月20日（金）～21日（土）で第120回GK会を開催しました。
GK会は当社のお取引様との情報交換や親睦を深める事を目的としたゴルフの会です。
今回は第120回の記念大会として、小田原湯本カントリーでプレーし、夜は箱根で宿泊、懇親会を行ないました。当日は曇り空でしたが、初めて廻るコースという方も多く、皆さん楽しそうにプレーされていたりしました。
またプレー後の懇親会でも大変に盛り上がり、皆さんの昼間とは違う一面を見る事が出来ました。
結果は、優勝が横浜伸銅株式会社の鈴木部長、準優勝はパンパシフィック・カッパー株式会社の松ヶ崎部長、第三位は当社・日吉という結果でした。
優勝した鈴木部長が初めてコースに出たのが、小田原湯本カントリーという事で、思い出のコースでの優勝となりました。次回は2016年5月の開催を予定しております。

記者 日吉・高橋



5. 銅相場『2016年第1四半期見通し』

1. 電気銅建値推移

2015年10月・・・670円スタート(10月平均676.5円)

2015年11月・・・670円スタート(11月平均638.3円)

2015年12月・・・610円スタート(12月平均610.0円)

2016年1月・・・610円スタート

2. LME在庫状況及び需給状況

LME指定倉庫在庫は2015年初めは約17万7,000トン。その後は徐々に増加し3月には約34万トンと倍増した。その後、8月末に約37万トンまで微増となったが、9月以降減少となり、2016年初めは約23万6000トンとなっている。

世界最大の銅需要国で、世界の銅需要の約半分を消費する中国の景気減速が続いている。12月の中国製造業購買担当者景気指数(PMI)は48.2。指数は好不況の分かれ目である50.0を10ヶ月連続で下回っている。それでも需要についてはこれまでのような大幅な伸びは期待できないが、中国の実質消費は3~4%増と見られ微増すると見られる。12月の消費者信頼感指数は市場予想の93.5に対し96.8と上昇。11月の90.4に対し回復しており米国内における需要は堅調であると予測される。

ICSG(国際銅研究グループ)の2015年10月の発表では、2016年の需給バランスは供給が2318.3万トン、需要が2331万トンと約12.7万トンの供給不足と予想している。4月時点では新規鉱山や既存鉱山の生産拡張など約36.4万tの供給過剰を予測していたが、各鉱山での天候不良やストライキが起るなど、生産減に加え、銅相場の下落による生産拡張の見直しなど減産による供給の下方修正が大きい為である。足元すぐに影響はないと思われるが、2016年後半に向けて注視したい。

3. 為替の見通し

ドル/円相場は、米FRBが2015年12月16日のFOMCで利上げ開始を決定。FRBが2度目の利上げを模索すると予想される2016年3月前後にかけて、米国景気が堅調に推移すれば、市場が織り込む利上げペースが足元の年2回程度からFOMC参加者の想定している年4回程度にさや寄せされていく公算が高い。一方、日銀は12月18日の金融政策決定会合で「量的・質的金融緩和の補完措置」を決定したものの、かえって日銀の金融政策の手詰まり感が意識された格好。当面は、日銀の追加金融緩和が見込み難いなか、ドル円相場の動向は米国景気の回復や利上げペースに大きく左右される見込み。足元でも、中国・欧州株の下落や米

国の12月のISM製造業景気指数が48.2と市場予測の49.0を下回り、リスク回避の為に円高が進行している。ドル高は、ドル建ての資源価格の下押し圧力となるため、資源国経済の

低迷を一段と助長し、一時的にリスク回避の円買いを誘発する可能性はあるが、最終的に米金利の上昇は日米金利差の拡大を通じて円安ドル高進行に作用すると思われる。

対ユーロでは、日欧ともに追加金融緩和観測がくすぶる中で、利上げ観測などを背景に先高観の強い米ドル建て資産などで資金を運用する際に、どちらがキャリー取引の調達通貨として魅力的かがポイント。資金調達コストとなる短期金利は円に比べてユーロの方が低水準となっており、リスクを取りやすい市場環境下では、円よりもユーロを調達通貨としたキャリー取引が盛り上がりやすい状況。米国を中心に世界景気の緩やかな回復基調が続けば、米ドルなどに対して円よりもユーロの方が売られやすい状況が続き、春頃までは対円でユーロが弱含みやすくなると思われる。

短期予測(1M) LME \$4,200~4,800/トン 為替 116~120円/\$
銅建値 540~620円/kg

長期予測(3M) LME \$4,200~5,200/トン 為替 116~121円/\$
銅建値 540~660円/kg

記者 吉田崇

